

リサーチコンプレックス形成推進事業

最先端の研究開発から事業化、人材育成までを一体的に展開し、
新たな産業技術と付加価値を世界へ発信します



<関連サイト>

リサーチコンプレックス



仙台市の目指す リサーチコンプレックス

仙台市では、多様な研究機関や企業が集い、地域企業と共に新しい価値を創出する「リサーチコンプレックス」の形成を進めています。

「3GeV高輝度放射光施設「NanoTerasu(ナノテラス)」、東北大学の「サイエンスパーク構想」とともに、仙台市の「せんだい都心再構築プロジェクト」や「共創型ウェットラボ整備」など産学官の取り組みを連動させ、十字に走る地下鉄沿線上に研究・産業の集積を図ることで市全体に分野の垣根を越えた共創が広がる環境を構築します。

さらに最先端研究に取り組む企業が実証に挑戦しやすい場の提供と、事業化につながる伴走支援を一体的に進めることで、仙台から継続的にイノベーションが生まれる好循環の創出を目指します。

仙台市のナノテラス 利活用促進策

ナノテラスは「ナノまで見える巨大な顕微鏡」と言われ、仙台市の東北大学青葉山新キャンパス内にて、令和6年4月から運用を開始しました。活用分野は先端材料や電子デバイス、創薬、医療、省エネ、環境、食、農業など多岐にわたり、様々な社会課題への応用

仙台リサーチコンプレックスイメージ図



が期待されています。

仙台市では、市が保有する年間2,000時間のナノテラス利用権を、全国の企業等が利用料のみの負担(1時間あたり39,900円)で利活用できる「NanoTerasuシェアリング2000」を運用しています。加えて、専門家による事前相談、測定支援に関する分析会社や大学等への委託費の一部補助、自社持込サンプルのお試し測定ができる測定研修会等の支援策により、ナノテラスの利活用促進に取り組んでいます。

また、次世代を担う高校生などに向けた測定体験や視察会など、教育分野におけるナノテラスの利活用も実施しています。

共創型ウェットラボの整備促進

市内外からの研究開発型スタートアップのニーズ増加に対しリサーチコンプレックス推進のための共創型ウェットラボ整備を

進めています。既存物件のリノベーションによりウェットラボを整備する民間事業者を対象に工事費の1/2(上限あり)の補助金を交付します。令和8年3月には、民間事業者と連携し、仙台市東部エリア(六丁の目)に整備のモデルとなる施設「MEDIUM(メディウム)」を整備しました。同施設にはウェットラボ5室を備えており、多数の企業から関心が寄せられています。引き続き、既存物件のリノベーション等の手法により共創型ウェットラボ整備を促進します。



ナノテラス内での研修風景